

富士フィルム
超音波診断装置の大手企業 米国 SonoSite、Inc.
の買収合意を発表
(2011/12/15)

富士フィルムホールディングス(株)は、12月15日、携帯型超音波診断装置の大手企業 SonoSite、Inc. (以下、ソノサイト社)と、同社が株式公開買付け(以下、本公開買付け)により、ソノサイト社を買収(以下、本買収)することについて合意した。同社は、米国子会社を通じた本公開買付けにより、ソノサイト社の発行済普通株式の総数を総額(完全希薄化後ベース)約995百万米ドル(1株当たり54米ドル)で取得する。

本買収後、ソノサイト社は、同社の連結子会社として、米国ワシントン州において事業を継続することを予定している。本買収は友好的なものであり、両社の取締役会において全会一致で承認された。なお、本買収完了のためには、ソノサイト社の株主総会における合併の承認や、法規制により要求される手続きの完了を含む一定の条件を満たす必要がある。今回買収するソノサイト社は、携帯型超音波診断装置のリーディングカンパニーで、ワールドワイドで高いシェアを持つ会社。特に、POC市場において、医療現場における医師のニーズを的確にとらえて、他社に先駆けそのニーズにこたえる機能を製品に搭載することにより、超音波診断装置の新たな応用分野を開拓してきた。

また、装置の超小型軽量化に寄与するASIC(特定用途向け集積回路)の設計技術を持つ技術力の高い会社である。高精細な「高周波プローブ」や新たな診断価値を生み出す「光超音波技術」など、次世代の超音波診断装置の開発において優位性のある高い技術も保有している。

超音波診断装置は、体表にプローブを当てて超音波を発生させ、体内で反射した超音波を受信し、画像データとして処理することで、臓器・血管・神経などの様子を可視化することができ、非侵襲で、かつ、大掛かりな設備が不要な画像診断装置。また、超音波検査は、腹部、頸部、心臓、乳房、血管、神経などさまざまな部位をリアルタイムで診ることができる非常に汎用性の高い検査であり、X線画像診断が不得意とする軟部組織の描写力に優れるので、X線画像診断と極めて高い補完関係にある

超音波診断装置の市場は、ワールドワイドで5000億円弱/年と、全医療画像診断装置で最大規模となっており、中でもソノサイト社が注力する携帯型の超音波診断装置は、年率10%超の成長を続けている最も期待ができる分野。富士フィルムホールディングスは、メディカル・ライフサイエンス事業を重要な成長分野と位置付け、設備投資や研究開発を大幅に強化、積極的なM&A展開による事業の拡大を進めている。

(次頁に続く)

今回、ソノサイト社を買収することで、成長著しい携帯超音波診断装置の市場に本格的に取り組み、超音波事業を、メディカルシステム事業の中で新たに成長の柱とすることを目指す。また、ソノサイト社は、X線画像診断分野でトップシェアを持つ富士フイルムグループに加わることで、画像診断のトータルソリューションを提供することや、富士フイルムのワールドワイドの販売拠点を活用することが可能になるなどのメリットが得られる。ソノサイト社が持つ独自技術や、医療現場のニーズを的確にとらえる力に、富士フイルムの高い画像技術を加えることで、携帯型超音波診断装置のさらなる技術革新を進め、この分野での市場拡大を目指す。